

2024年11月22日 千葉大学アカデミック・リンク・センター

2024年度第4回ALPSセミナー

「大学図書館における学習支援：どのようにコンセプトを組み立て、具体化するか」

参加者アンケート（Zoomによるウェビナー）

当日参加者数： 259名 アンケート提出数： 108件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーの満足度はどの程度ですか。

・満足した	57名	・まあ満足した	43名	・どちらとも言えない	3名
・やや不満である	0名	・不満である	2名	・評価できない（途中退席等）	3名

2. 1. でそのように回答した理由をお書きください。

満足した

- ・ 本学でも現在、ラーニングコモンズの新設を検討しているが、他大学の先進的な取り組みを拝見することができたため。
- ・ 各大学の具体的な取り組みを伺えたため。
- ・ 他大学の参考になる事例を知ることができた
- ・ それぞれの取り組み事例を知ることができた。質疑のパートが興味深い内容だった。
- ・ それぞれの館の取組を具体的に聞くことができて、大変参考になりました。
- ・ 特に、千葉大学の行動、メンタルのポジティブな動きを見習いたいと感じた。
- ・ 学習支援を担当していて、動線の問題などで悩んでいたところだったので、特に千葉大学さんの発表が（検討の進め方など）参考になりました。
- ・ 様々な図書館の取組について知ることができたため
- ・ 学習支援の取り組みについて他大学の事例が聞けたので良かった。結局は現場の様子を地道に拾うことも必要なのと、組織の大小関係なく、組織的に目的を持って動くことが成功の秘訣ということが良くわかりました。
- ・ 近畿大学の図書館は以前から注目しており、聞いて良かった。
- ・ 特徴的な3つの大学での、それぞれの取り組みについて聴くことができた。
- ・ ご登壇された各先生方のお話で図書館の設計や学修支援の取り組みが参考になりました。
- ・ 他大学の取り組みや、意識の高さを感じることができ、気づきや学びが多かったです。あと、新しい図書館の話は聞いているだけでも、ワクワクするので楽しく聞くことができました。
- ・ いずれの事例報告もしっかりとしたビジョンを描いて実行に移されている。あたりまえのようですが、素晴らしい活動を持続的にされているところがよき学びになりました。
- ・ どの大学の実践例も、非常に参考になることが多かったから。
- ・ 発表された図書館における取り組み、その背景がよくわかりました。
- ・ 新図書館にまつわる事例と組織でどのようにプロジェクトを回していくのか、についてお聞きすることができたから
- ・ 気づきを得ることができたため。
- ・ 先進的な事例を多数おうかがいすることができ、大変参考になりました。
- ・ 非常に積極的に学修支援に取り組んでいる例をご紹介いただいて、自館に活かそうなことがないか

を探りながら、とても実のあるセミナーであったと思いました。

- 3大学様それぞれの発表の中で、大学側の想いと学生・利用者の想いをどうマッチングさせるか、ということに心をくだかれていることをお聞きし、非常に感銘を受けました。
- 図書館の講習会の担当者として、各大学様の取り組みをお聞きしたく参加いたしました。空間づくりなどのハード面、人的支援などのソフト面からの事例をお聞きでき参考になりました。ありがとうございました。
- 時間がちょうどよかった。また3大学の発表の内容が参考になったので。
- 先進的な図書館事例を知りたかったから
- 内容がわかりやすかった。
- 実態に即した試みについて説明を受ける機会を得たため
- 図書館は大学の中心から少し外れたところにあり附属施設であるイメージを持っていたが、大学の教職員、学生みんなを巻き込んでいく、全員参加型の図書館を目指す取り組みに感銘を受けた。学生のために施策を行っても思ったような効果が得られないことがあるが、データに基づき当事者の意見を丁寧分析する重要性を改めて感じた。
- 先進的な取り組みの話聞いて刺激を受けた。
- 全部を視聴できませんでしたが、本学でのこれからの学修支援の検討において、大変参考になりました。
- 以前から千葉大学さんのHP (Academic Link) で提供されている情報が非常に分かりやすいと感じており、そういったものを創り出されている背景(職員さんの働き方)を知りたいと思い参加しました。そのあたりの詳細を伺えたので、大変満足です。明治大学さん、近畿大学さんのお話も大変勉強になりました。
- 図書館におけるソフト・ハードの両面で、先端を担う他校事情を知ることができました。大学規模、学部事情・地域性を理解した上で、本学事情と照らし合わせ、参考にさせていただきます。感じたのは、図書館への投資費用、と独自性と思いました。
- 他大学の事例を聞けたり、学びが多かったから。
- 各館の取り組みを詳しく知ることができ、勉強になりました。
- 先進的な取り組みを伺うことができたから。
- 大学教育における図書館の重要性がよく分かった。他大学の取り組みや図書館設立に係る思いを聞いて、勉強になった。
- 各講演の中に、本学においても取り組みたい内容が含まれていたため。
- 現在、本学でも学修支援に力を入れていこうと考えていたため、他大学の事例を知るとはとてもためになりました。
- 3大学図書館の取り組みを伺って大変勉強になりました。
- 大学ごとの色や職員の意識、現在進行形で取り組んでいることなど、幅広く学べたため。
 - ・実際に学修支援に携わっている他大学の方の生の声が聞いて良かったです。
 - ・ハードウェア、ソフトウェアや組織運営など様々な面において最新の情報と事例を知れて、学びが多くありました。
- 大学図書館についてあまり知識がなかったので、進んでいる図書館の話が聞いて大変満足している。

まあ満足した

- パワーポイントの画面が小さすぎて、見にくかったの。

- お声が若干聞き取りづらかったため。理由は分かりません。明治大学の方の内容は最新の設計についてで感心しました。
- 具体的な事例が多く参考になった。
- 新しい取り組みを行う際も、理念を共有できているとブレずにできるということを改めて学んだ気がします。
- 新しいコンセプトの元に開館した／する図書館について知ることができたから
- 他館の情報を得られたため。
- 図書館ができてから長年の取組のブラッシュアップが聴けたこと
- 理想的な図書館運営について、発想の転換ができた。中規模大学のような予算が取れない図書館の工夫なども知りたかった。
- 明治大学の新しい図書館の様子と、近畿大学の斬新な図書館、千葉大学の教職協働の話が聞くことができました。
- 各大学さまの積極的な取り組みを拝聴することができた。少しでも参考にさせて頂きたいと思います。
- 他大学での取り組みや学生のために何ができるかささまざまな工夫をされていることがわかりました。
- 他大学の事例や設備などを知ることができた。
- 図書館建設の話はうらやましく聞かせていただきました。本学の参考にできる部分とそうでない部分がありますが、業務改善という意味で千葉大学の話は大変参考になりました。
- 最近の図書館を含めた学修支援の動向について伺いできたので
- 登壇された方のご所属が異なり、切り口も異なり、純粋に面白かったから。最近つくづく理念や客観的な指標とともに組織としてのモチベーションが大切だと感じています。
- 学習支援についてハードよりもソフトの方を期待していたため、少し下げましたが、どの講義も大変よかったです。
- 明治大学生田新図書館の状況を知ることができたこと。
- 施設や設備といったハード中心のお話もあり、参考にできる部分が限られると感じられたため。一方で、千葉大学さんの事例は、大変参考になったとともに、優れた取り組みやその実行が可能となった組織に、尊敬と羨望の念を抱きました。
- 他大学における図書館の利用者支援について話を聞くことができたため。
- 大学訪問せずにとっても充実した説明を聞かせて頂くことができた。近大さんは同じ関西の為是非訪問させて頂きたい。また明治は完成したら訪問したいと思いました。
- 千葉大学での取り組みが具体的でとても興味深く参考になりました。明治大学と近畿大学の取り組みも素晴らしかったのですが、施設によるものも多く、手軽に取り入れるのは難しいと感じました。
- 登壇者の方々のお話から三者三様の状況を詳しく聞くことができたので。
- オンライン受講が可能であったので、自館の複数人が出張旅費経費をかけることなく、先進大学図書館の状況を知ることができたので。
- 図書館における学習支援の最前線の情報を期待していましたが、少し期待外れでした。
- 違ったコンセプト、形態が異なる館の事例を知ることができた。設計の段階で、現場の方がどの程度検討に参加されていたのかも分かる良かった。
- 各大学の考え方、実践例などを拝聴し、参考になった。資料提供は当日でもよいけれど、開始前からダウンロードできたら、最初から集中できたかな、と感じました。
- 思ったよりラーニング・コモンズ的设计に関する話が多かったため（勉強や参考にはなりましたが）

- 大きな大学ならではの企画や内容で小さい大学等ではちょっと実現がやはり難しいと感じました。でもとても参考になりました。
- それぞれタイプの異なる事例が聞けたのが良かったです。
- 各大学の取り組み等大変参考になりました。大学の規模が異なるため実際に反映できる取り組みが少ないと感じました。

どちらとも言えない

- 本日のお話をうかがい、自館でどのように活かせるか、むつかしいところがあった。
- 大変有益な情報である一方、本学への取り込みについては困難さを感じたため

不満である

- 発表内容が、主に施設設備に関するものばかりで、学習支援活動に関するものが少なかったため。
- 2大学の発表が、施設設備の観点に終始し、このセミナーのテーマである「教育学習支援活動」についての議論が少なく、その点の知見を深める事がまったくできなかつたため、期待はずれであったため。

評価できない（途中退席等）

- 自席で受講したため、電話等他の用務対応に拘束される時間が多く、残念ながら集中して受講することが出来なかつたため。
- 業務の都合により、途中退席いたしました。申し訳ありません。
- 業務をしつつの視聴だったため、残念ながら途中聞けない時間があり、大事な部分を聞き逃してしまったかと思われるためです。

3. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- 千葉大学さんの学生の意見・視点を取り入れる、データを活用するという部分が私どもには足りない部分だと発見しました。
- 「スタッフ内でのコンセプトの共有」の重要性を再確認できました。
- 予算があって大きなことをするところにもそれなりの大変さがある。
- 2に書いてしまいました。
- よく議論した上で、利用者の声を聴いて答え合わせをすることが大切だとわかりました。
- 業務委託をもっと活用すべきかと考えた。
- それぞれの大学で具体的な取り組みは異なるものの、ユーザー（学生）目線でサービスの在り方を考えている点が共通しているということが印象的であった。
- 言い訳しないこと。それをチャンスだととらえて行動すること。
- 学生のニーズ
- 「教育」「研究」「社会貢献」「学修支援」という大学のミッションを再確認でき、図書館で稼働させる方法を知ることができた。
- 従来型の図書館のありかたから発想を転換する必要性
- 催しに業務委託を活用されていること。
- 24時間開館する方策が参考になりました。
- 図書館機能の強化・拡張についてです。
- 教職協働のポイント、言語のすり合わせ、カウンターに出る意義の言語化

- 図書館の機能として本を読むだけでなく、学生がくつろげる場、一人でも集中して学習できる場にするのが大事だということがわかってよかったです。今後の図書館運営に活かしていきたいです。
- 新しく建設された図書館の設備について
- 時間をかけて取り組むことが必要であると理解できた。意思の疎通には、言葉の定義を共通化することも重要であるということが新鮮であった。教員と職員との協働プロジェクトであることが、成功のひけつと感じました。さらに学生の意見を取り入れることで、より精度があがる事例を紹介いただきました。
- 人数が少ないからこそ理念が共有しやすい、人数の少なさや制度の違いを「できない」理由にしない、というお話に心打たれました。
- 大学の教育研究に対する姿勢というものが、図書館に集約されているものと思います。図書館やラーニングcommons等を見れば、大学は判断できるものと改めて思いました。
- 最後の千葉大学様の人数の少ないことをメリットと捉える視点は、とても心強く感じました。
- 職員全員がカウンターに出て学生に接する、という千葉大学様の取組は大変素晴らしいものと思います。小さな分館勤務だった時はそれが当たり前でしたが、中央館ではカウンターに出ることがなくなってしまい学生との距離があるような気がしていました。本学の図書館もそうあるべきだと思いました。
- どの大学も理念に基づき学修支援に力を入れている。また、事務方だけでなく教員との教職共同が胆であることが確認できた。
- 講習会担当者として、特に千葉大学様の長年続けておられる取り組みに目指す姿が見られると思いました。できればもっとお話をお聞きしたいと思いましたが、本日は誠にありがとうございました。
- 結局、組織的な文化と【人】に因るんだらうなと思いつつ、こんな形をしたいと思うだけではなく、動ける方々が多く生まれるきっかけになると非常に良いことだと思いました。
- 最後の質疑応答の時間で、千葉大学さんのコメント「カウンターに全員出る。学生の姿を直接見る。困っている姿を見ると何とかしようと思う。」という言葉聞いて、どこの大学図書館にも通じるものだと改めて思いました。
- 学習支援に対する試行錯誤の過程が勉強になりました。
- 千葉大の利用者支援に係る能動的な姿勢とそれが2010年以前からの試みの上に出来上がっているということ。
- 図書館職員だけでなく大学職員としても、学生動向調査や、学生の意見の集約が、最も重要で最も難しいと感じているのですが、実際の成功事例を目の当たりにして、力不足を痛感するとともに、規模に関わらず、この実現こそが大学の生き残りにも大いに影響してくると思いました。
- 実施しているサービスメニューの中で改善を考えがちですが、学生の行動を起点として、他のサービスとの関連を意識し各サービスの設計や改善を行った事例は、自館の改善に対する大きなヒントをいただきました。
- 各図書館で、それぞれ利用促進について努力されていることがわかりました。
- 近大さんは外部の機関もステークホルダーとして、巻き込み実施されているとのことでした。本学では自分たちの人力でどうにかするところが大きかったりするので、勉強になりました。外部機関と連携することで、新たな化学反応を生み出して、大きなことを成し遂げられているのだなと思いました。また、千葉大学様は学生の声をきちんと吸い上げ、しっかりと分析を行った結果、改善をできるところから着実に進められている姿勢に、改めて身近で利用者である学生の声を聞く大切さを再認識しました。
- 「図書館」は建物でなく機能を指すという考え方、従来の図書館の概念にとらわれないイベント等の実施例を伺い、新たな気づきがあった。本学でも今後参考にして参りたい。

- 人と人との交流、人と場、場と場、地域とのつながり、そして何よりコミュニケーションの大切さを改めて感じました。千葉大学での教職員が一体となって、“当たり前”のこととして、支援に取り組みられている様子をお伺いし、そこが充実した支援の源になっていると思いました。近畿大学の24時間対応の自習室においてほとんどトラブルがないとお伺いできたことが興味深かったです。
- 千葉大学図書館(アカデミック・リンク・センター)の取り組みがとても先を見越した取り組みであり、長い時間をかけてブレずに行ってきたことが教職員の協働や意識の変革と定着に至ったのだろうというのを改めて理解できて、とても参考になりました。
- アカデミックリンクのコンセプトやプロジェクトの運営方法等、参考になるお話が聞けて良かったです。また、近畿大学のビブリオシアターに行きたくくなりました。
- 近畿大学のアカデミックシアターの話で、図書館の機能は「人と情報と技術をつなぐこと」と、図書館の意味を再定義して、幅広い活動の拠点となっていたこと。新しい視点が得られた。
- 千葉大図書館の取り組み、特に進め方については参考になりました。
- 表面では見えない、「外部委託」です。
- 完成して終わりではなく、利用の仕方など継続して検討していく仕組みがあることが重要だと感じました。
- 図書館だけでなく他部署や外部との連携が大事だと感じました。
- 人を中心にした視点で様々な機能がつながっていることが良くわかりました。
- 何をしてもそうですが、人間関係を円滑にする努力を惜しまないこと。
- 図書館の内部について、壁を設置する/しない、棚の配置、図書の配置、階段の位置、机の位置等、一つ一つに意図があって、利用者は知らないうちにいろんな刺激を受けていることが分かった。改めて、空間デザインの大切さがわかった。
- 学生が不便に感じていることを把握した上で、エビデンスに基づき改善をされている過程が、よく理解できました。
- どの図書館も連携することの大切さを伝えておられて、図書館だけでなく大学の部署との連携・学生との連携・企業との連携が必要だということが改めてわかりました。
- 千葉大学さんの改善点の洗い出し方法、分析方法がとても参考になりました。また、近畿大学さんの本館分室の配置は、図書館に来てもらう、ではなく、図書館が学生のところに行く、図書との出会いやなにげない好奇心を掘り起こすとてもよい例だと感じました。最後のお話しにあった小さな図書室の設置も、コンビニ感覚な身近で利用しやすい図書館になり得るかもしれない、とも感じました。
- 特にALCのプロジェクトの内容や改善事例、今後の課題等を知ることができ勉強になりました。
- 明治大学の新しい図書館が完成しましたら、ぜひ見学してみたいと思いました。
- 課題を現実に即して分析し、既存のサービスの枠にとらわれることなく、対応方法を見出そうとする手法は参考になります。
- 図書館に足を運ぶことによって、今自分がやっていることを客観的に見ることができると思った。担当やWGでの取り組みにいかしたい。
- 大学図書館でのこれからの学習支援の在り方について、参考になりました。
- ・近畿大学「アカデミックシアター」の運営体制
- ・千葉大学の教職協働プロジェクトの仕組み

4. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- どうやって予算や人員を確保するのか。

- 吹き抜けの光熱費は、実際はなかなかたいへんな状況ではないかと思う（自館がそうなので）。
- 前の会議が延長したので、20分ほど遅れて視聴したことが残念でした。
- もう少し個々の学生支援の内容について詳しく聞きたかった。
- 実働職員や学生の（個別ながら場合によっては声の大きい）ネガティブな意見に対して、どのように対応しているのかは気になりました。
- 公の場では話しづらいような各校の苦勞している点、不満な点は気になります。
- 回線の問題か、質問をぶつ切りでしてしまいましたが、図書館の学習目的以外のニーズに沿っていくことへの考え方や割合がどの程度なのかは関心を抱くところです。そこからどう学習に促していくのか、間口を広げるのか、メインユーザーの声を大事にするのかはそれぞれ異なるのでしょうか。
- 千葉大学様の教員との協働についてももう少し伺いたくなりました。
- 最後の質疑応答で、近畿大学の図書館がかなりの部分を業務委託されているようでしたが、専門性の質をどのように保っていらっしゃるのかが気になりました。ここもながら視聴状態でしたので、聞き逃しているかもしれません。
- 365日24時間開館に係る法人からのセキュリティ及び管理経費等について意見・縮減要請等は無かったか？
- 前述のとおり、学生目線、利用者の立場での必要な支援というものが最も重要だと思いますが、どのようにして、学生動向調査や意見集約を実現させているのか、参考にお聞きしたかったです。
- 質疑応答等も十分にご対応いただいたので、わからなかったことはございません。
- 近畿大学さん、千葉大学さんが、あのような先進的な取り組みが出来るのは、そうした「文化」があるからということであったが、その辺をもう少し掘り下げられたら良かったと思う。
- 費用面について、とその経費にかける目的について
- 図書館機能を拡充することと、学内関係各課との「連携」が必要なことはよく理解できますが、小規模な大学の場合、マンパワーが不足しており、人員が潤沢な大規模大学のようなことをそのまま採用することは不可能で、かなり工夫する必要があること。
- とてもわかりやすい資料・説明で疑問はありません。
- 近畿大学さんの事例について。「図書館を通り抜けて食堂に行く」ということは、図書館を通り抜けるために利用証をゲートに通すことは気にしない学生が多い、ということでしょうか。出会いだけでなく利用に繋げるためには、カウンターの配置などに工夫があるのでは、と感じました。そのあたりのことをもう少し詳しく伺いたかったです。
- 教員との協力・連携を取ることが当方でも難しい課題となっています。どのように進めていったのかやスムーズだった点やいまだに難しい、連携が取れないなど感じるマイナスの点も教えて頂けるのでしょうか。
- 産学連携について、「それは大学ごとの特色だから」として良いのか。運営や図書館としての在り方について少々疑問。（これからの図書館としての戦略だ、と言われそうですが）
- 学生や教員の学習や研究にどれだけ効果があったか。
 - 近畿大学「アカデミックシアター」の運営体制の中で図書館職員の立ち位置、役割について
 - 千葉大学スライドP14「異動しても原則プロジェクト担当は変更しない」という部分について詳しく知りたい
- 特にありません。（同様のもの5件）

5. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、

また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- 教職協働までいかずとも、教員と職員が協力しないと物事を進めることは困難。
- 聞く力、調整能力が必要だと感じた。
- 持ち合わせがありません。
- 学生協働、オープンアクセスについて、関心があります。
- 学生がどのレベルで図書館を必要としているか、大学内でどのような勉強をしているか教員と共有できれば図書館での学習支援が学生のニーズにあったものになっていくのではないかと思います。
- やはり個々の職員、最近では修士の学位をお持ちの方も多いと思いますが、専門分野を生かした支援が行えるとよいと思います。ただし職員をしていると最新の研究動向からはどうしても遠ざかってしまうのでアップデートは必要だと思います。
- 在り方、資質、能力すべてにおいて、現状に甘んじない姿勢が重要であると思います。
- あらためて言及するような目新しいことは、ありません。
- 大学の目指す教育・学習支援の方向性と、学生が本当に望む方向性が合致しているかは、常に懐疑的でありたいとは考えています（無理に大学が誘導していないか、等。とはいえ誘導が悪いことでもなく、どこでバランスさせるかだとは思いますが）
- 先生の数だけ教えのあり方、学生の数だけ学びのあり方があるので、支援の仕方は一様ではありません。各校で教職員各自が前向きに続けていくことが大切と考えます。その環境づくりをする運営側の努力も必要となります。
- 教育・学修支援のために必要と思うことは現場に寄りそうボトムアップ型の組織体制と継続性だと思います。企業ですとなかなか難しいことも多いですが、【巻き込むこと】、【本音をいう場所をつくること】が大切なのかと思います。それを若手にさせるのではなく、ある一定のキャリアを持つ方が引っ張る形でないと続きません。
- 必要な資質は、千葉大学のみなさんのお話でもありましたが、相手が何を困っていて、何を望んでいるのかを知ろうとすること、そして対処することだと思います。そして、國本先生がおっしゃるとおり、みなが当事者意識で努力する組織こそが、実現を可能にするのだと思います。残念ながら、努力中ではありますが、まだ道半ばといった状況です。
- 本学では教学部組織が主管で「ライティングサポート室」というところで、図書館外で論文執筆のアドバイジングを行っています。情報機器のサポートデスクも情報システム課という部署で分かれていて、基本は図書館外にあります。学修相談は場所貸しとなっています。国立大学のように図書館が担当で担うことも含めて、各部署間で連携して、再検討が必要な時期に到達してるなと感じています（実現可能か分かりませんが…）。また、図書館に協力してくれる教員ポストも無いので、教員との連携も難しいです…。回答になっていませんが…。
- まさにこの質問にあるようなことについて、先進事例を探したり、本学では何ができるのかについて課題として取り組んでいるところです。
- 教職協働の体制が必要だと感じています。
- 学修支援の在り方について、当大学生の図書館に求めているものを常に拾う方法、と対策。資質について 改善しようとする姿勢、方法、技術、実践。一例として、他校事情を学ぶこと。
- あり方としては、学修支援と学習支援は異なることを認識し、ラーニング・コモンズ内の1つの機能ではなく、大学としての位置づけが明確であることが必須だと考えます。また、学修支援を担当する専門の部署も必要だと考えます。現在勤務している大学では、その辺りがあいまいになっているため、学修支援の利用を促進する取り組みもその場しのぎになってしまいます。業務委託であるので、大学組織の

改革には意見を言えず、目先のことしかできないのが歯がゆく思います。

- それぞれの人にとって、複数の入口があり、どのようなきっかけからも支援が可能なように分かりやすく提示し、その人に合わせた内容を提供できると良いと思いました。
- 私は固まった考えなので、教育支援とは主に教授を対象に、授業支援や授業に参加する学生についての教授からの相談が主かと思っています。そして学修支援は主に学生を対象に、大学生活での悩みに寄り添うものと想定しています。そうしたときに、事務職員ができることにはやはり限りがあるのではと感じています。例えば、学修に困難を抱えている学生には、様々な背景があり、それぞれに大学には専門員がいると思っています。カウンセラーだったり、授業のサポーター（ピアサポート団体のようなもの）だったりです。事務職員は、自分が直接的に学生の困難の解決や悩みに寄り添うというより、そういったところに繋ぐことで支援する存在であるべきかと思います。また、教育支援というところにはどのように関わっていくかについても、あまり明確に分かっていません。やはり教授という存在はとても遠い存在であり、こちらから何か支援することはできるのかな（おこがましいのでは）と考えてしまいます。教材準備とかは、それ相応の存在（助手とかTAとか）がいらっしゃると思うし、事務職員ができる教育支援とは何なのか、もう少し勉強したいです。例えば今回の明治大学のお話の中で、生田新図書館が目指すものとして、「学修支援の推進、教育支援の促進、研究支援の展開」がありました。「教育支援の促進」については、「知的好奇心の刺激」と「グローバル化への対応」とあり、細かい説明もついていました。これが「学修支援」「研究支援」ではなく、「教育支援」となるのはなぜなのだろう、と、自分の足りない頭で考えました。事務職員が行いうる教育支援とは何か、これからも現場の中で考えていきたいです。
- 学修支援に必要な能力は従来のやり方にとられない柔軟力が必要だと思われます。時代が変わり、学生も変わっていく。そんな中で、今のサービスが本当に今の学生のニーズに合っているのか考え、アップデートしていくことが大切だと思われます。
- 学修支援は教員との連携が不可欠だと感じています。当館ではゼミのテーマごとに図書・論文などの情報探索例を提案し実習する「文献探索講習会」を実施しています。テーマはゼミ教員から提示いただきます。図書館スタッフがテーマにあった分類、データベースの選択、検索キーワードの模索をし、実習を通して学生に情報探索を実感してもらう構成です。自分の卒論テーマと近ければ学生の反応もよいですが、講習会中に「このデータベースはこのゼミでは、このようなときに使うことを想定していますよ」という教員からの助言がある場合は、さらに能動的な受講態度に変化します。また逆に、教員から「基礎的すぎる内容だったから、もっと専門のデータベースを実習に加えてほしかった」と講習会後の感想として寄せられたこともあります（1年生前期の受講のため、論文とは何か、文献入手までの流れの理解を目的とした内容）。図書館が目指しているところ・意図と教員が目指しているところのお互いの共有やすりあわせが事前に必要だと感じるものがしばしばです。
- 図書館内で完結するのではなく、教職連帯していく必要があると思った。
- 学生のメンタルヘルスに関する研修

6. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- アカデミックリンクセミナーにはほぼ毎回参加させていただいておりますが、業務の都合上、途中退出せざるを得ないのが非常に残念です。後日、録画の公開を希望いたします。
- 少人数の小回りの利く組織でありながら内輪に閉じず、全学に理解される行き方とはどんななのか、最後の段の話はもう少し聞きたかった。
- 見学してみたいと思いました

- 学修支援についての意識や関心が本学では全く感じられず…どこから手を付けたらよいのかわかりません。本日は、ありがとうございました。
- ありがとうございました。
- たくさんの学びがあり、有意義な2時間でした。もっと聞きたかったです。
- 既存の図書館としての役割を維持しつつ、これからは学生に寄り添ったサービスを提供していくことが今の図書館に求められていると感じました。そのためには大学内で図書館で学生に提供したいサービスについて理解してもらわないと他部署との連携もできないのですが、そういう場合資金もない場合はどのように解決すればいいのか今後セミナーで開催していただけるとありがたいです。
- 手前味噌で恐縮ですが、当館で行っているゼミ支援（ゼミの1授業時間、100分をまるまるいただき、学生と対面で出張レファレンスを行うような支援）はなかなか他では行われていないようで、当館では長年行っていますが、古くて新しい授業支援だと思いました。学生さんと直に対話して行っていくので、どういうテーマに関心があるのか、どういった調査方法を行っているのかということが分かり、毎回得るものが多いです。
- よく考え、戦略をたてて取り組むことのすごさを感じました。また「漫然とサービスを続ける」ということばにドキッとしました。
- 個人的には日頃から「業務改善」には努めてきましたが、今回「プロジェクト」として取り組むという視点をいただき、組織的に取り組むことの効果に気づくことができました。
- 千葉大学のこういったセミナーはとても内容があって、役に立つセミナーが多く感じます。
- お金のある私大はやっぱり違うなーと思いつつ、コンセプトやゾーニングの考え方は大いに参考にしたいところです。千葉大さんのようなマインドが、どうやったら醸成できるかも悩みどころです。
- 長らく大学図書館（国立）に勤務していたものの、事情があって現在は図書館とは別の部署におりますが、図書館司書としての感覚が鈍らないように、休暇をとって参加してみました。とても有意義な時間を過ごさせてもらいました。実は、家族がこの春から千葉大学様に入学し、お世話になっております。以前から、千葉大学様の図書館は大変すばらしい、と家族に話しており、彼はそれで千葉大学様を志望しました。本日のお話をうかがい、やはり日本一の国立大学図書館だと思いました。卒業までうんと図書館を使って勉学に励むよう、今一度話しておきたいと思います。
- どうしていきいたいのかわかり易いメッセージを持つことが大切だなと感じました。ありがとうございました。
- 全学の協力を得る空間づくりからお考えになられている明治大学様、様々なプロジェクトを連携させる事例をご紹介いただいた近畿大学様にも現状をお教えいただきまして誠にありがとうございました。本セミナーを運営いただいた皆さまにも感謝申し上げます。
- また時間があれば参加したいですし、見学に行きたいです。これから大学は淘汰の時代ですが、サービスの質はより向上させないと、競争原理が弱くなると学生の質は担保できなくなりそうな気がします。
- 私大図の例をあまり詳しくうかがえる機会がないため、よかったです。ありがとうございました。
- いずれの方々も、図書館が人と図書・情報を結ぶネットワークの一部というようなことをおっしゃっていて、自分のところはまだまだそうはなっていないような気がするので、どうすれば価値の転換を図れるかを知りたいと思いました。
- 質疑応答は叶いませんでしたが、前述のとおり、どのようにして、学生動向調査や意見集約を実現させているのか、参考にお聞きしたかったがお伺いできる機会があれば、幸いです。
- 図書館活動に力を入れている大学は本当に素晴らしい活動をしているということ

- 自身は図書館運営に直接関わる立場にないが、大学での業務全体に活用できる気づきを得られたと感じる。貴重なご講演をありがとうございました。
- 具体的な事例を伺うことができる貴重な機会を設けていただきありがとうございます。運営がスムーズで、参加しやすかったです。今後のセミナーにも期待しております。
- いつも参考になる講演を開催していただき、どうもありがとうございます。
- ヒントをいただいたような気がいたします。困ったときにそれを回避する、という思い付きのようなこと（自由な発想も必要ですが）だけでは今後太刀打ちできない、ということに改めて気が付きました。ありがとうございました。今後もこのようなセミナーを拝聴したいと思いました。
- 研修資料について、当日配付ですと本学ネットワークセキュリティの関係上、ダウンロードすることができません。事前配付ですと予め学外ネットワークからダウンロードする等、対応がとれるため事前配付としていただけますと助かります。
- 申し訳ございません。当日業務が入ったため、参加することができませんでした。
- 資料を事前に配信していただければ、なお良かったと思います。
- 毎回、有益なセミナー開催ありがとうございます。是非、継続してくださるようお願い致します。
- 刺激を受け、学びました。また、機会がありましたら、お願いいたします。ありがとうございました。
- 人数が少ないことがマイナスではないというお話があった時に、自分もポジティブに捉えて取り組みたいと思いました。貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました。
- とてもためになる内容ばかりでした。本学の図書館しかわからない私にとって、このように他大学の事例を知れる研修はとてもありがたく、参考になります。今後もこのような研修をもっと参加出来たらと思います。
- 図書館スタッフのみでテスト期間中のみ専門のデスクを立ち上げてますが、卒論のようなテーマで難しいと感じることも多々あります。学生の基礎の力もそもそも落ちているように感じるので教員がきちんと教えてあげるべきだし、こちらも学生の不安に答えられるように能力の引き上げをしたいと考えていますが具体的にどうするべきかはわからないままになっています。大手の大学の参考事例も大変勉強になりますが、小さいところやこれから取り組もうとしている機関にもなにかアドバイスのようなものを頂けると心強いです。
- 講演3について、本図書館では、学生がレファレンス等で聞きに来ることはあまりない。職員のみで対応。聞きに来やすい環境づくりが大事だと感じた。千葉大学様の例を見習いたい。
- HP を見るだけでは想像できなかった部分が多くあり、非常に刺激的な経験でした。貴重な機会を設けていただき、ありがとうございました。お忙しい中、ご対応いただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。
- 大変有意義なセミナーとなりました。受講させていただき感謝申し上げます。
- どうもありがとうございました。次回も参加したいと思います。

7. ご所属について、該当するものを選んでください。

- 千葉大学に所属 7名 ・ 千葉大学以外に所属 101名

8. 身分について、該当するものを選んでください。

- 学生 0名 ・ 教員 7名 ・ 大学職員(図書館職員を除く) 14名 ・ 図書館職員 78名
- 出版関係 2名 ・ その他 7名

9. 千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これら

の情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けします。「登録しない」を選択してください。)

・登録する 26名 ・登録しない 82名